

## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

イベント名	日本の水技術展～おおいたの水を知ろう
主催者	日本の水技術展大分実行委員会
開催日	2007年12月 <input checked="" type="checkbox"/> 1日 <input checked="" type="checkbox"/> 2日 <input type="checkbox"/> 3日 <input type="checkbox"/> 4日 <input type="checkbox"/> 5日
開催時間	10:00～18:00
開催場所	<input checked="" type="checkbox"/> 別府市内 <input type="checkbox"/> 大分県内 <input type="checkbox"/> その他
会場名	トキハ別府店センターモール
参加人数	1200名

### 開催概要（900字以内）

15企業・団体・学校の水に関する技術や、水環境保護の取り組みなどをパネルと展示物で紹介。ステージでは、温泉と地域の関わりについての発表や、水楽器・浮沈子の工作教室、水の汚れ調査や水の浄化などの実験教室、アルピニストの野口健さんの講演会など、8つの講座を開いた。実施したセミナーは、別府青山高校の生徒さんによる研究発表「わがまち別府のホットライン」、高見徹・大分高専准教授の講演「太陽と水と生き物の暮らし」、実験教室「浮沈子をつくろう」、実験教室「色々な水の実験をしよう～きれいな水とは？水をきれいにしよう！」、水質調査体験「川の健康診断をしてみよう」、手づくり楽器「水カンリンバをつくろう！」、実験教室「水の汚れを調べてみよう」、アルピニスト・野口健さんの特別講演。野口さんは第1回アジア・太平洋水サミットの運営委員でもあり、環境を守るために命がけで清掃登山をしている話や、地球温暖化でヒマラヤの氷河が溶けて流域の国々で水災害が起きていることなど、貴重なお話をいただきました。また、屋外に土石流がリアルに疑似体験できる自然災害体験車と、新聞号外がその場で刷れる大分合同新聞社の「ぶんぶん号」（1日のみ）、大分県薬剤師会の給水車（2日のみ）を置き、無料で見学してもらいました。協力：河川環境管理財団、国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所、野口健様（野口健事務所）、トキハ、国立大学法人大分大学、国立大分工業専門学校、別府湯快倶楽部（APU、別府青山高校）、大分県薬剤師会、別府市管工事協同組合、大分県環境管理協会、大分キャノンマテリアル、東芝セミコンダクター社大分工場、タナベ環境工学、ユーネット、コスモ工機、大成機工、TOTO、前澤給装工業、大分県青少年育成アドバイザー協議会（以上、順不同）



## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

### 日本水フォーラムに期待すること（600字以内）

県内各地で沸き起こる温泉、土地によって成分の変わる各地の湧水、多くの一級河川、そして、生命を生み出す海。大分県は『水』に恵まれた土地です。今回の第1回・アジア太平洋水サミットを通して、「水は空気のようにあるもの」といった大分県民の『水』に対する意識に変化が生まれたと思います。通常、大分県内で活動する当委員会メンバー自身も同じことで、今後は、大分県内で『水』に対する意識の更なる醸成・継続・拡大をテーマに、活動を継続していく所存です。大分県委員会はもとより、日本水フォーラムにおいては、大分県内の水に対する活動の支援や、アジア・世界と大分を結ぶ懸け橋になって頂ければ幸いです。

### その他（オープンイベントを開催した感想、今後の予定など、600字以内）

当オープンイベントのテーマは「見て、聞いて、感じて、楽しい水の学習会」。次代を担う子どもたちに少しでも水に対して関心を持ってもらいたいと、小学生とその保護者を主な対象に設定しました。展示コーナーや水セミナー、自然災害体験車などを通して、参加者に水と親しむなど水環境保護の大切さや、水の危険性、砂防の大切さ、そして自分たちが今何をしなければならないのかを感じてもらえたのではないかと思います。特に水に関するセミナーは多くの方々の力で工夫を凝らしたカリキュラムとなり、体験型のすばらしい水学習会となりました。また、野口健さんの講演会では、聴講の小学生からの質問が活発に行われ、県内の子供たちの水に対する意識の高さが伺えました。

これを機に、当実行委員会は、今後も県内の方々に水の大切さを啓発する活動を継続していく、という意識が芽生えました。